

Ⅱ 研究経過の概要

1 研究主題への取り組みの動機

戦後の精神薄弱教育は、民主主義と教育の機会均等の中で、一部教師たちの情熱に支えられて出発した。特殊学級の設置を見ても、学校独自の立場での任意設置の時代から、教育委員会による計画設置へと移り、さらに、昭和54年度からは、養護学校の義務制がはじまったのである。

その間、精神薄弱教育の目標・教育内容など全般にわたって、何回となく見直しが行われてきた。特に、養護学校の義務制移行の前後から、すべての障害児に教育の機会を均等に与えるべきであるという機運がようやく盛り上がり、重度重複の問題、情緒障害を含む対象児の多様化が、大きくクローズアップされてきた。

このような現状の中で、昭和53年4月、本校は創設を迎えたわけであるが、当然のことながら子どもたちの将来をどのように見通し、「この子らに必要な能力は何か。」「どんな経験が、この子らに生きて働く力となるのか。」を考え、そのためには、「何を」「どのように」教えるのかといった教育課程編成の基本的な事柄について検討し、従来のもの（附属小・中学校特殊学級における教育課程）の見直しをはかる必要に迫られていたのである。

言うまでもなく、教育課程の編成では、対象となる子どもに対して、目標をどのように考えて教育課程をどう考えるかによって、その内容は異ってくる。

年度	研究の概要
53	研究視点の共通理解と教育内容の検討 ・教育目標・教育内容の検討 表現化に視点をあてた教育課程の編成を研究テーマに決定 ・段階別教育内容表の作成
54	段階別教育内容年間配当表の作成と月別指導計画の具体化 ・段階別教育内容年間配当表の作成 ・月別指導計画により表現化を柱とした授業研究に着手
55	表現化に視点をあてた授業の検討 ・各学部の基本的立場の確立と小・中高一貫した指導の検討 学習過程の仮説と検証 ・表現化に視点をあてた評価の研究に着手
56	表現化に視点をあてた教育課程の編成と展開のまとめ ・段階別教育内容表の改訂 ・表現化を柱にした授業の確立 ・評価の研究

従来、精神薄弱教育の目標は、「将来の社会自立のために必要な～」とか、「将来の独立自活に必要な知識・技能・態度～」と、社会自立をめざすものであった。しかも、社会自立の具体的内容は、就職・進学・結婚が当然のように考えられていた。しかし、対象児の重度・重複・多様化にどう対処するかが問題となるこの頃では、現実の子どもたちを前にして、あまりにも理想的で、極端に言えば、現実ばなれしたものと云わざるを得ないのである。しかし、将来の社会自立を無視して、精神薄弱教育を語ることはできないことも事実である。

そこで、本校の教育課程の見直しを、「幼・小・中・高等部が一貫した教育内容の精選とその構造化について」共通理解をはかりながら、「積極的に社会に参加しうる人間の育成」をめざして研究と取り組んでいくことにしたのである。

また、教育課程については、「教育の目的および目標を達成するために、学校によって学習を促進するため目的的に使用される経験内容である。」という立場にたって、重度児も含めたすべての対象児の社会自立をめざす、より妥当なものを編成しようと試みた。

2 社会自立をめざす本校の基本的姿勢

精神薄弱教育の目標は、将来子どもたちが生き抜かねばならない社会的立場を想定し、設定されてきた。例えば、「社会自立に必要な知識・技能・態度の育成～」 「独立自活に必要な～」などは、いずれも社会自立をめざす人間形成そのものが目標となっている。

さらに、具体目標では、「身辺問題の処理と確立」「集団生活への参加と社会生活の理解」「経済生活および職業生活への適応」といった3つの柱を基本として、子ども実態から検討され設定されてきたはずである。

しかし、従来の精神薄弱教育では、一般社会の中で就職や進学を指向した自立可能な子どもたちのために準備された目標であり、自立が極めて困難と考えられた子どもたちは、一部の福祉施設を除いて、特殊教育の世界からは振り返られなかったはずである。このような立場では、当然すべての障害児に対して、有効に働く教育課程が編成されているとは思えないのである。

従来の精神薄弱教育における教育課程は、各教科・領域の合科統合による生活中心的な編成を多くみた。しかし、その内容は、生活という名の教科中心的色彩が濃く、生活経験の獲得・拡大という観点から見ると、学校教育以前（教科以前）の段階で、もっと重視しなければならない何かがあることに気付くのである。本校では、0才児からの子ども発達（経験獲得の様相）を見直すことから、教育課程の編成と取り組んだのである。

言い換えると、学習内容を、「よみ・かき・ソロバン」の観点からではなく、「生活経験の拡がり」から、従来から言われている具体目標の3つの柱を検討したのである。その過程で、仮設として、「精神薄弱教育で社会自立をめざすとは、表現する力を身につけていくことである。」